



# とらいあんぐる



2021 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「あわせ鏡」

前号「ほんとうのこと」で、私が絶対音感（ハタ）の指導で、大きな思いちがいをしていた話をしました。

実は、その後、驚くほどの反響をいただいています。

おうちの方がお子さまに“告知”をおこなってくださり、おけいこ内容が別人のように変わったケースもありました。ある程度、年齢の高い生徒さんの場合、本人の自覚と緊張感にまさるものはないのかもしれませんが。

こうした反響は、正直なところ、予想以上でした。

ハタのおけいこで、苦戦しておられる、もしくは悩んでおられるご家族が、私が思うよりもずっと多いことを知らされます。

良い話も良くない話も、もっと皆さまに披露し、共有していくべきなのかもしれない、と思いました。

前号で失敗談を披露していますから、私の話など、まったく説得力がないことでしょう。

でも、失敗談は反面教師として、成

功した話よりも、時に強いインパクトを持ちます。また、30年以上に渡り、指導をし、研究をしてきました。経験だけは、積み重なったと思っています。

これまで数えきれないほど、ご相談を受けてきました。今も、毎日のように、お電話を頂戴しています。

今は、この4月におけいこをスタートしたばかりの方から、多くご相談をいただきます。「もう？」とは、思いません。軌道に乗せるところが、一番、難しいからです。

それも多くの方がすでにご存じのことでしょう。



多いご相談は、こんなふうです。

「1日5回のおけいこが、思ったよりもたいへん」

「まだ小さな子どもに、毎日おけいこをさせるのは、かわいそうなのではないか？」

「そもそも、子どもが絶対音感がほしかどうか分からない。親のエゴで、強制してしまっても良いのか？」

おうちの方は、迷っています。

心やさしいお母さま、お父さまだからこそ、迷うのでしょうか。

シンプルに考えますと、選択肢は、2つしかありません。

① 絶対音感をつけてあげたいから、おけいこをやり通す。

② おけいこをさせるのはかわいそうなので、おけいこをやめる。

これは、どちらかが正解、という問題ではありません。

続けても良いし、やめても良いのです。私どもは、絶対音感があまりにも便利であるため、おすすめしてしまい

ますが、絶対におけいこをしなくては  
いけない、ということはありません。  
自由です。

苦しいのは、2つの選択肢のうち、  
どちらにも決められないからである  
ように思えます。やり通すと決めるこ  
とにも、やめると決めることにも、覚  
悟がいます。

どちらとも決められないまま、迷い  
ながらおけいこを続けている方が、実  
は少なくありません。

そうすると、よくある悪い循環に陥  
ります。

悪い循環の一例は、こんなふうです。  
お母さまが、「こんなにたいへんな  
おけいこをやらせるのは、かわいそう  
なのではないか？」と、内心、迷って  
いたとします。

お母さまにその気持ちが芽生える  
と、お子さまの態度1つ1つが、「イ  
ヤそうに」見えてきます。

本当は、ただ眠いだけであったり、  
もっと遊んでいたかったり、おけいこ

と関係ないことで機嫌が悪かっただ  
けかもしれません。

でも、それを見たお母さまは、「あ  
あ、やっぱりおけいこがイヤなのだ  
な・・・かわいそうに・・・」と思っ  
てしまいます。

お子さまは、そんなお母さまの迷い  
の雰囲気を感じ取ります。ある時、なに  
げなく「おけいこ、イヤ！」といて  
みます。

そうすると、お母さまは「イヤなの  
ではないか？」という予想があたり、  
「ああ、やっぱり！」と思うのです。

「やっぱりイヤなのだ」と納得して、  
おけいこをあとまわしにしてしま  
います。



お子さまは、「あれっ？」と思います。

「今日のパママは、『そんなこといわないでやりましよう』っていわない。なんでだろう？」

「すぐ、あきらめちゃった。なんでだろう？」

「ま、いいか」

「イヤ」というとおけいこをあとまわしにできることを学習したお子さまは、気が乗らなければ、すぐ「イヤ」というようになります。



一方、「子どもがイヤがっている」と感じはじめたお母さまは、おけいこに根気強く さそうことができなくなります。

お子さまが「イヤ」といえば、すぐにあきらめてしまいます。かわいそうだからです。

お子さまからすれば、この時点で「イヤなら、やらなくても良いおけいこ」になっています。だから、ためらいなく「イヤ」といいます。

どんどんおけいこ回数は減り続け、続けているとはいえない1日1～2回レベルにおちこみます。

おけいこは、進みません。やめたも同然の状態になります。いっそスッパリやめた方が良くらいです。

発端は、「子どもがおけいこをイヤがっているのではないか？」というお母さまの予想でした。

うがった見方をするならば、そもそもおけいこをやめたかったのは、お子さまではなく、お母さまであったのか

もしれません。でも形としては、「子どもがおけいこをイヤがるから」ということになります。

人は自分の予想や希望を裏付ける情報を好んでひきよせ、重く扱います。

これを心理学の言葉で、「自己成就予言」といいます。

例えば、Aさんという人から好かれている、と思ったとします。そうすると、自分に好意的なAさんには、無意識のうちに、フレンドリーにふるまったり、親切にしたりします。あくまでも、無意識です。

その結果、本当にAさんから好意を持ってもらえるようになります。

「やっぱりAさんは自分のことが好きなのだ！」と確信します。予想が的中した形ですが、実は自分がひきよせた結果です。

最初は、「こうなのではないか？」という、ただの予想でした。でも、その予想にぴったりの情報を拾ったり、予想と矛盾しないように行動したり

することで、実際に予想通りになるのです。これが「自己成就予言」です。

「思った通りになった」という経験は、どなたにもあると思いますが、案外、思いこみの力で事態を動かしていたのかもしれない。

話を戻します。

おうちの方が、「子どもがおけいこをイヤがるのではないかな？ やりたくないのではないかな？」と予想すると、高確率でお子さまは、おけいこをイヤがります。

本当です。

人と人は、合わせ鏡です。親子は特にそうです。

おうちの方に迷いがなければ、お子さまも迷いません。イヤがっても、どのみちやらなければいけないと分かっていたら、抵抗する時間が無駄なので、さっさとやってくれます。

お子さまは、1日に何回も、手を洗いますね？

毎日、歯を磨きますね？

こういうことを、自発的に喜んでやってくれる子は、ごく少数だと思います。

「うちの子は、歯磨きが好きではないようなのです。イヤがることがあります。子どもに毎日、歯磨きをさせるのは、かわいそうなのではないでしょうか？」

こういう相談は、きいたことはありません。

絶対音感が必要だと思ったら、迷いません。

迷ってはいけないところです。

おうちの方が、おけいこをやるべきかどうか迷っていると、お子さまは苦しい時間を過ごすこととなります。

このおけいこで、一番、苦しいやり方は、少ないおけいこ回数で続けることです。

おけいこ回数が少ないと、たくさん間違えます。そして、ほとんどの場合、長期化します。

「たくさんやらせるのはかわいそう」と、おけいこ回数を増やさないまま続けると、何年も何年も、苦しいおけいこをすることになってしまいます。一番、損で、一番かわいそうなやり方だと思います。

お子さまから「なんで、おけいこしなくちゃいけないの？」ときかれたら、「大切なおけいこだからよ」と、ニコリ笑って、答えてください。

おうちの方が、おけいこは歯磨きと同じくらいの位置づけとと思ってくだされば、お子さまも歯磨き程度の熱意で、おけいこをしてくれるでしょう。

それでじゅうぶんです。

「子どもに何とって、おけいこにさそえば良いですか？」

これもよくいただくご質問です。

工夫は不要です。こういってください。

「さあ、おけいこしましょう！」

(江口 彩子)

## ◆「第15回ジュニア・コンサート」を開催しました

すでに教室内のポスターでもお知らせしていましたが、4月27日(火)に、「第15回ジュニア・コンサート」を開催いたしました。

ですがその直前に、強い内容の非常事態宣言が出され、予定していた「ゆめりあホール」の客席が使用禁止となってしまいました。お客さまの前で演奏したいという出演生徒さんが多数であったため、急きょ、「ひびきホール」での開催としました。

大きなホールでの演奏がかなわなかったことは、たいへん残念でしたが、多くの方が足をお運びくださり、会場はたくさんのあたたかい拍手につつまれました。

ご出演くださった生徒さん、本当におめでとうございます。そして、応援にかけてくださったお客さま、教室の感染防止対策を信頼してくださり、ありがとうございました。

## ◆感染拡大防止にご協力をお願いします

「第4波」と呼ばれる波が来ています。世の中に、ゆるみが見られようとも、教室は緊張感を途切らせることなく、感染防止につとめます。おそらく今度の波が、最大の波となるのでしょうか。

グループレッスンは、人数制限をもうけております。生徒さんお一人につき、つきそうおとなの方はお一人とかぎらせていただきます。クラスによっては、ご家族の方はお部屋の外でお待ちいただくよう、お願いすることもございます。

年少さん以上の方には、マスク着用をお願いしています。体験レッスンに来た方にも、そのルールは徹底しています。

アルコールもしくは、洗面所での手洗いで、手指の消毒をお願いいたします。アルコールは各教室玄関に、置いています。手洗いの場合は、洗面所備え付けのハンドソープをかならずお使いください。

「ショパンはうす」待合室は、窓を開けたままにしています。音の問題があります

ので、待合室でのおしゃべりはお控えください。レッスン室も、生徒さんの入れ替えのたびに、窓を開けて換気しています。

ドアノブや手すりは、こまめに消毒しています。先生は各自、鍵盤をふく布を持ち、鍵盤や机を、生徒さんごとに消毒しています。

少しでも健康に不安のある生徒さんは、通学をおひかえください。またそれは先生も同様であり、対面レッスンの先生に健康不安がある場合、急きょ、代講の先生が指導させていただく場面もあるかもしれません。どうかご理解ください。

## ◆ 夏の発表会にむけて

今年の夏の発表会は、8月6日（金）、7日（土）、8日（日）、9日（月）の4日間です。会場は、「成増アクトホール」です。

コロナ禍での発表会は、2回目となります。去年は、試行錯誤もありましたが、経験を通して、私どもも学びました。今年はより安全な形で、実施できると思います。

幸い、「成増アクトホール」は、舞台も客席も広い、大きなホールです。密を避けた進行ができます。

昨年同様、生徒さんにも、ご家族の皆さまにも、多大なご協力をお願いすることになりますが、どうかよろしく願いいたします。

生徒さんの中には、4月にピアノのレッスンをはじめたばかり、中には一音会に入会したばかり、という方もいらっしゃると思います。「まだ曲らしい曲は1曲も弾けないから無理だわ・・・」とお考えかもしれませんが、それは違います。

先生の伴奏で、すてきに仕上げることができます。もしおうちの方がピアノをお弾きになれるのであれば、おうちの方との連弾で、ご出演いただくこともできます。素晴らしい思い出になるでしょう。ぜひご相談ください。

演奏は人前で披露してこそ、です。大きな舞台にあがる経験は、他では得がたいものです。

0～3歳の生徒さんは、リトミックの発表で舞台に上がっていただきます。くわし



くは、リトミックのレッスンの中でご案内させていただきます。

「発表会のお知らせ」は、5月22日（土）よりお配りする予定です。中に申込書がありますので、日程や部のご希望を記入し、ご提出ください。ご提出の〆切は、6月27日（日）です。



### ◆リハーサル・トライ動画をごらんください

昨年は、感染防止の観点から、「リハーサル・トライ」（教室で事前におこなう発表会リハーサル）をやめ、「リハーサル・トライ」動画を、ご家庭でごらんいただきました。「リハーサル・トライ」の場で、生徒さんやご家族の方にお伝えしたいと思っていたこととおさめたものです。昨年、ご好評をいただきましたので、今年も皆さまには動画をごらんいただき、当日の流れを把握していただきたいと思います。

動画のQRコードは、「発表会のおしらせ」の中に、載せています。モバイルをかざして、URL情報を取得してください。

人前で弾く練習は、おうちでご家族の方の前で、弾いておくことをおすすめします。

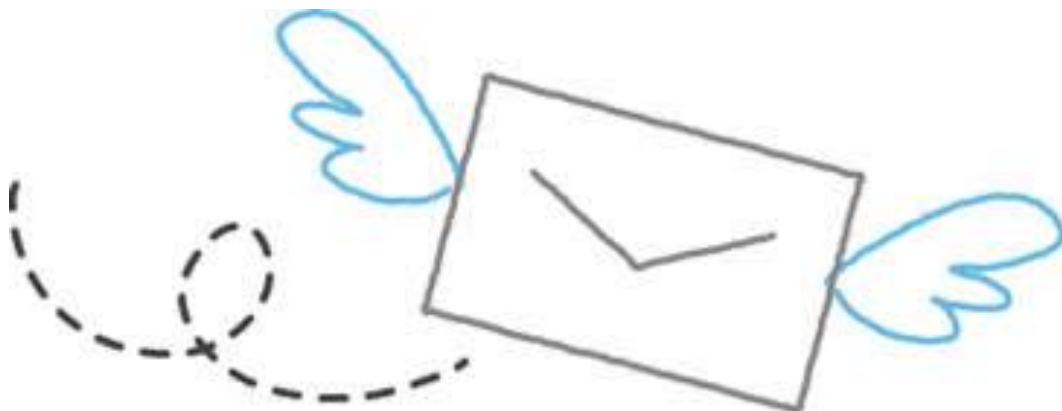
発表会につきまして、ご不明のことは、何でもお気軽におたずねください〔本部：03-5966-7711〕。

## ◆欠席連絡をメールで受け付けています

欠席のご連絡をメールで受け付けています。ぜひ登録してご利用ください。以下が、欠席連絡用のメールアドレスです。

[oyasumi\\_ichionkai@yahoo.co.jp](mailto:oyasumi_ichionkai@yahoo.co.jp)

- ◆件名にかならず生徒さんのお名前を書いてください。
- ◆メールの本文には、①生徒さんお名前 ②欠席日時 ③レッスン曜日 ④担当名(何のレッスンをお休みになるのか) を、かならずお書きください。
- ◆欠席連絡以外の、レッスンの振替依頼や担当への問い合わせは、このメールではお受けできません。別途、お電話ください。



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)      電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。